



地域医療を支え、世界に羽ばたく 広島大学医学部 75周年



国が進めるスーパーグローバル大学創成支援事業(トップ型)の13大学に、中四国で唯一選ばれた広島大学。その重要な一翼を担う広島大学医学部が創立75周年を迎えた。地域や世界で活躍する医療人は7000人。広島市内で開業する医師の約7割を占める。コロナ禍の中、住民の生命と健康を守る「地域医療の磐(とり)」への期待は、ますます高まっている。



広島大学長
越智 光夫
1977年卒

原爆で廃墟化した広島の地に開学した広島大学は、今や世界トップ100を目指す国内有数の総合研究大学として発展しています。医学教育・研究・診療の拠点である広島大学医学部は、国際的に高い評価を受けている医学研究者や、広島の地域医療を守る医療人を数多く送り出してきました。格闘が575年を経て、「平和の大学」としての広島大学に対する社会の期待も高まっています。人類がコロナ禍に直面している現在、一日も早いパンデミックの制圧に貢献するため、医学部・大学院をはじめ広島大学の能力を挙げて取り組んでいく所存です。皆様のご理解とご支援を心からお願ひ申し上げます。



広島大学医学部長
栗井 和夫
1986年卒

広島の近代医学の発祥は、1877(明治10)年創設の広島医学校にさかのぼります。黎明(れいめい)期にあつたのが国の医学発展に尽くしたのは、広島の先人たちでした。原爆投下の前日に開校した広島県立医学専門学校は、幾多の苦難を乗り越え、県立医科大学、広島医科大学を経て広島大学医学部となりました。その後、広島大学医学部は、広島の復興・発展とともに中四国有数の医学部として発展してきました。2018年には、日本医学教育評価機構により、国際基準の医学教育を実施していると認定されました。地域社会や世界で活躍できる優秀な医師を養成するために、今後も国際的に通用する医学教育の充実力を入れてまいります。皆様のご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

4人の医学部出身学長を輩出

広島大学は、初代の森戸辰男学長以来、12人が学長を務めている。出身学部別みると、4人が医学部の出身で、理学部と並んで最も多い。



第4代
(1969~1977)
飯島 宗一
(病理学)



第9代
(1993~2001)
原田 康夫
(耳鼻咽喉科学)
1957年卒



第11代
(2007~2015)
浅原 利正
(消化器外科学)
1971年卒



第12代
(2015~現在)
越智 光夫
(整形外科学)
1977年卒

歩み



広島大学医学部の前身である広島県立医学専門学校は、原爆投下前日の1945年8月5日に開校。校舎と附属病院(県病院)は原爆によって全壊焼失したものの、前日のうちに集団疎開した多くの教職員・学生は無事だった。

48年、県立医科大学となり、広島医科大学を経て53年、国立に移管され広島大学医学部として再出発。57年には医学部と附属病院が呉市から広島市の旧陸軍兵器補給廠跡(現在の霞キャンパス)に移転した。

69年、医学部に薬学部(現在の薬学部)を設置。さらに92年には保健学科が設置された。大学病院は2003年に入院棟(地上10階、地下1階)を新築。13年にオープンした診療棟(地上5階、地下1階)は医科と歯科の外来を統合するなど、緊密な医療連携が特徴だ。医学・歯学・薬学・保健学・原医研・病院が一堂に集う霞キャンパスは、患者さんに寄り添う最先端の医療を提供するとともに、優れた医療人を育てるメディカルセンターとして発展している。



主な受賞者

紫綬褒章

- 1995年 原田 康夫
- 2004年 木村 榮一
- 2015年 越智 光夫

文部科学大臣表彰

- 2010年 科学技術賞(科学技術振興部門) 越智 光夫(整形外科学)
- 2011年 科学技術賞(開発部門) 河野 修典(分子内科学)
- 2012年 科学技術賞(研究部門) 山脇 成人(精神神経医科学) 岡本 泰昌(精神神経医科学)
- 2020年 科学技術賞(研究部門) 越智 光夫(整形外科学) 安達 伸生(整形外科学) 亀井 直輔(整形外科学)

紫綬褒章、文部科学大臣表彰の受賞者数は中四国の大学医学部で最多

会長・会頭を務めた 主要学会(最近10年間)

- 2010年 第106回日本精神神経学会学術総会 山脇 成人
- 2013年 第86回日本整形外科学会学術総会 越智 光夫
- 2013年 第116回日本小児科学会学術総会 小林 正夫
- 2014年 第103回日本病理学会総会 安井 弥
- 2017年 第118回日本耳鼻咽喉科学会総会 平川 勝洋
- 2017年 第69回日本産科婦人科学会 工藤 実樹
- 2018年 第115回日本内科学会総会・講演会 河野 修典
- 2018年 第117回日本皮膚科学会総会 秀 道広
- 2018年 日本麻酔科学会第65回学術大会 河本 昌志
- 2020年 第79回日本歯学会学術総会 安井 弥
- 2020年 第106回日本消化器病学会 茶山 一彰

医学研究成果を世界へ発信!

- 救命に必要な遺伝子を見だし、2つの論文を同時発表。(Nature, Cell Biology, 2009/今泉和則)
- 腫瘍の筋萎縮性側索硬化症(ALS)の原因遺伝子がオプチュンリンであることを解明。オプチュンリンがオプチュンリンに関与していることが明らかになり、ALSの蛋白変異異常を示す代表的遺伝子となった。(Nature, 2010/川上秀史)
- 国際共同研究により、胃がんにおけるマイクロRNAの発現解析結果を世界で初めて報告。特定のマイクロRNAが新規バイオマーカー・治療標的となる可能性を示し、胃がんの生物学と臨床に新たな展開をもたらした。(Lancet Oncology, 2010/安井弥)
- 肝がんになりやすいC型慢性肝炎の症例3,312例の血液を調べ、がん発症に関係のあるDEPDC5遺伝子を見出し、遺伝子多型の個人差(遺伝情報の違い)により、がんになる確率が約2倍高くなることを突き止めた。(Nature, Genetics, 2011/塚山一彰)
- 認知力マウス、潰瘍性大腸炎などの自己免疫疾患の発症に重要な遺伝子であるTh17細胞の分化・増殖の鍵となる分子(ROBY1)を、先天的に欠損した患者を世界で初めて特定し、病態を明らかにした。(Science, 2015/原田康夫)
- 2030年までにC型肝炎ウイルス(HCV)感染を撲滅する戦略に必要な疾病負荷の負荷も、世界規模の国際共同研究で明らかにした。世界のHCV有病率1.0%、キャリア数7,110万人と推定。(The Lancet Gastroenterology and Hepatology, 2017/田中純子)

世界の医学部と学生交流



広島大学はハノーファー医科大学(ドイツ)、ダラフト医科大学(オーストラリア)、ソフィア医科大学(ブルガリア)、アムステルダム大学(オランダ)、台北医科大学(台湾)、マラカ大学医学センター(マレーシア)など、世界各地の12の医学部と交換留学協定を結び、毎年20人以上の医学部生が相互に訪問。2020年2月には、エジプトの18年次で医学部生73人が広島大学医学部・広島大学病院で研修し、日本の最新医療技術と学んだ。

コロナ禍に立ち向かう

救命最前線

24時間365日、広島県・市民の生命を支える大学病院。新型コロナウイルス感染症の第3波が広がる中、県内唯一の第一種感染症指定機関としての使命を担っている。コロナ治療の最前線に立つのが、志馬伸朗教授が率いる救急集中治療科。医師27人(うち救急科専門医20人)と西日本最大の規模を誇る。



県内の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者のうち最重症例を受け入れる役割を担っている。最重症患者を欠かさない「体外式膜型人工肺(ECMO/エクモ)」を5台備え、専用の病室も4床確保している。県内では独自にECMOセンターを設け、COVID-19患者が発生すれば、症状に合わせて病院に振り分けるシステムを取っている。大下俊一郎准教授がトリアージの一翼を担い、重症度の判定も行う。人工呼吸器が必要な患者を重症とし、エクモの一段階前まで搬送するため、より早い対応が可能だ。

エクモによる呼吸管理は機材に加え、人員、体制、知識、技術全てが求められる。従来から、医師をはじめ看護師、臨床工学技士、理学療法士など多職種(ワークチーム)を構築しているのも特徴。エクモ症例数は国内トップクラスに、期待は大きい。広島県は独自にトリアージセンターを設け、COVID-19患者が発生すれば、症状に合わせて病院に振り分けるシステムを取っている。大下俊一郎准教授がトリアージの一翼を担い、重症度の判定も行う。人工呼吸器が必要な患者を重症とし、エクモの一段階前まで搬送するため、より早い対応が可能だ。

もとより、通常の救命救急医療ももちろんにはできない。「大学病院は最後の砦」。行政や他の病院との連携を保ちながら、しっかり役割を果たしたい」と志馬教授は、スタッフと共に対応を続けている。

医系の総力を結集

COVID-19の感染拡大を受け、「広島大学COV-PEACE-PROJECT 2020」を4月17日に霞キャンパスに設置。27研究室(71人)の協力を得て、学内で新型コロナウイルスのPCR検査を実施できる体制を構築した。広島県の「官学連携によるCOVID-19の検査研究体制構築事業」の一環として、行政検査を委託し実施中。

さらに、新型コロナウイルスに対する予防ワクチンや治療薬開発、感染状況把握の疫学調査、遺伝子解析、ゲノム解析など、医学・医療系の研究が一堂となって診断や治療、対策、ウイルス学の新研究などに取り組む。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の感染症対策技術開発事業では、実証・改良・有効性確認・基礎の4分野で田原栄俊教授(薬学部)、志馬伸朗教授、大毛宏善教授、坂口正教授による研究課題が採択され、具体的な成果も出始めている。

診療拠点病院

広島大学病院が指定を受けている拠点医療施設

- 高度救急医療センター(2015.8/26) 全国5カ所
- 原子力災害医療・総合支援センター(2015.8/26) 全国4カ所
- 小児がん拠点病院(2013.2/8) 中四国1カ所
- がんゲノム医療拠点病院(2019.9/19) 中国1カ所
- てんかん診療拠点機関(2015.11/20) 中四国4カ所
- 都道府県がん診療連携拠点病院(2006.8/24)
- 治験拠点病院(2007.7/2)
- 第一種感染症指定医療機関(2004.3/11)
- 高度救命救急センター指定医療機関(2005.4/1)
- 肝疾患診療連携拠点病院(2007.10/2)
- エイズブロック拠点病院(1997.4/25)
- 地域周産期母子医療センター(1999.3/30)
- 災害拠点病院(2012.3/29)

地域の医療を支える 広島大学医学部 (医局出身者が長を務める 主な医療機関など)

- 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター(院長 下瀬 省二)
- 独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター(院長 奥谷 卓也)
- 独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター(院長 勇木 清)
- 独立行政法人国立病院機構 広島東医療センター(院長 佐藤 英夫)
- 広島県立総合保健福祉センター(所長 佐伯 貞良)
- 公立世帯中央病院(院長 来嶋 也子無)
- 尾道市立総合医療センター 公立みつ総合病院(院長 齊藤 俊秀)
- 広島県立障害者療育支援センター わかは療育園(園長 馬渡 英夫)
- 広島県立総合保健福祉センター(所長 高宮 秀明)
- 地方独立行政法人府中市病院機構 府中市市民病院(院長 中井 潤治)
- 広島市精神保健福祉センター(所長 山本 昌弘)
- 恩賜財団 済生会呉病院(院長 松浦 秀夫)
- 恩賜財団 済生会広島病院(院長 松本 公治)
- 広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院(院長 田茂 進)
- 広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院(院長 藤田 隆)
- 広島中央保健生活協同組合 福生協病院(院長 北口 浩)
- 広島中央保健生活協同組合 生協いきき病院(院長 重本 公治)
- 県庁病院(院長 河村 徹)
- 三菱三井病院(院長 寺而 和史)
- NTT西日本中国四国

広島大学医学部創立75周年おめでとうございます

広仁会(広島大学医学部医学科同窓会)は 65周年を迎えました

1955年(昭和30年)に発足

広島大学医学部が75年間輩出してきた医師(広仁会員)は延べ7,000名となり、広島を中心に国内外で地域医療から国際貢献まで幅広く活躍しています。

第17代会長 小林 正夫 (1978年卒)



活躍する広仁会員

- 鳥取 約20名 島根 約50名 北海道東北 約50名
- 広島 約3,750名 関東甲信越 約510名
- 山口 約110名 四国 約110名 東海北陸 約170名
- 海外 約40名
- 関西 約690名
- 九州・沖縄 約380名 西国 約175名
- 全国の医学系大学 教授 約90名
- 厚生労働省 6名
- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA) 2名
- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 1名



1986年(平成6年)12月広仁会館完成
広島大学霞キャンパス内

広仁会歴代会長

- 初代 浅野 弘(1929年卒)
- 第2代 岩倉 茂(1930年卒)
- 第3代 木野 守三(1933年卒)
- 第4代 赤松 隆彦(1930年卒)
- 第5代 山下 和彦(1932年卒)
- 第6代 岩倉 茂(1930年卒)
- 第7代 長尾 邦雄(1932年卒)
- 第8代 福原 照明(1930年卒)
- 第9代 井上圭太郎(1930年卒)
- 第10代 増田 哲彦(1934年卒)
- 第11代 福原 照明(1930年卒)
- 第12代 平田 敏夫(1937年卒)
- 第13代 大城 久司(1930年卒)
- 第14代 中谷 一輝(1931年卒)
- 第15代 新本 隆(1935年卒)
- 第16代 土肥 博雄(1937年卒)
- 第17代 小林 正夫(1978年卒)



広島大学医学部医学科広仁会
734-8551 広島市中区南一丁目1-3
TEL (082) 257-5098 FAX (082) 256-5300
http://www.koujin-med.jp

